



コップの水は何日かすると、どうしてなくなるの

水は少しずつ蒸発する

コップに水を入れて、何日か置いておくと、水が少しずつ減っていき、やがて、なくなります。水がなくなるのは、水が水蒸気になって、空気中に出ていくからです。

水が水蒸気になることを、水の蒸発といいます。洗たく物がかわいたり、机の上にごぼした水がなくなるのは、水が蒸発しているからです。

海や川、地面など水のある所からは、いつも水が蒸発しています。

水は3つの形に姿を変える

水は温度によって、3つの形に姿を変えています。水は、ふつうの温度では液体です。

水は0℃以下に冷やされると、氷（固体）になります。水が少しずつ蒸発したり、水を熱したときには、水是水蒸気になります。

やかんでお湯をわかして、そのまま火にかけておくと、やかんのお湯は、だんだん少なくなっていくます。これは、やかんのお湯が、水蒸気になって空気中にどんどん出ていくからです。

水蒸気になると体積は増える

水が水蒸気になったときには、体積が非常に増えます。もとの水の体積の、約1700倍にもなっています。（監修・小川 格）

